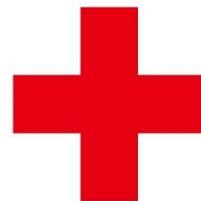


# 令和5年度 血液事業への取り組みについて



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

令和6年8月30日(金)  
第2回血液事業部会運営委員会

# 1. 令和5年度事業概要

## (1) 事業実績

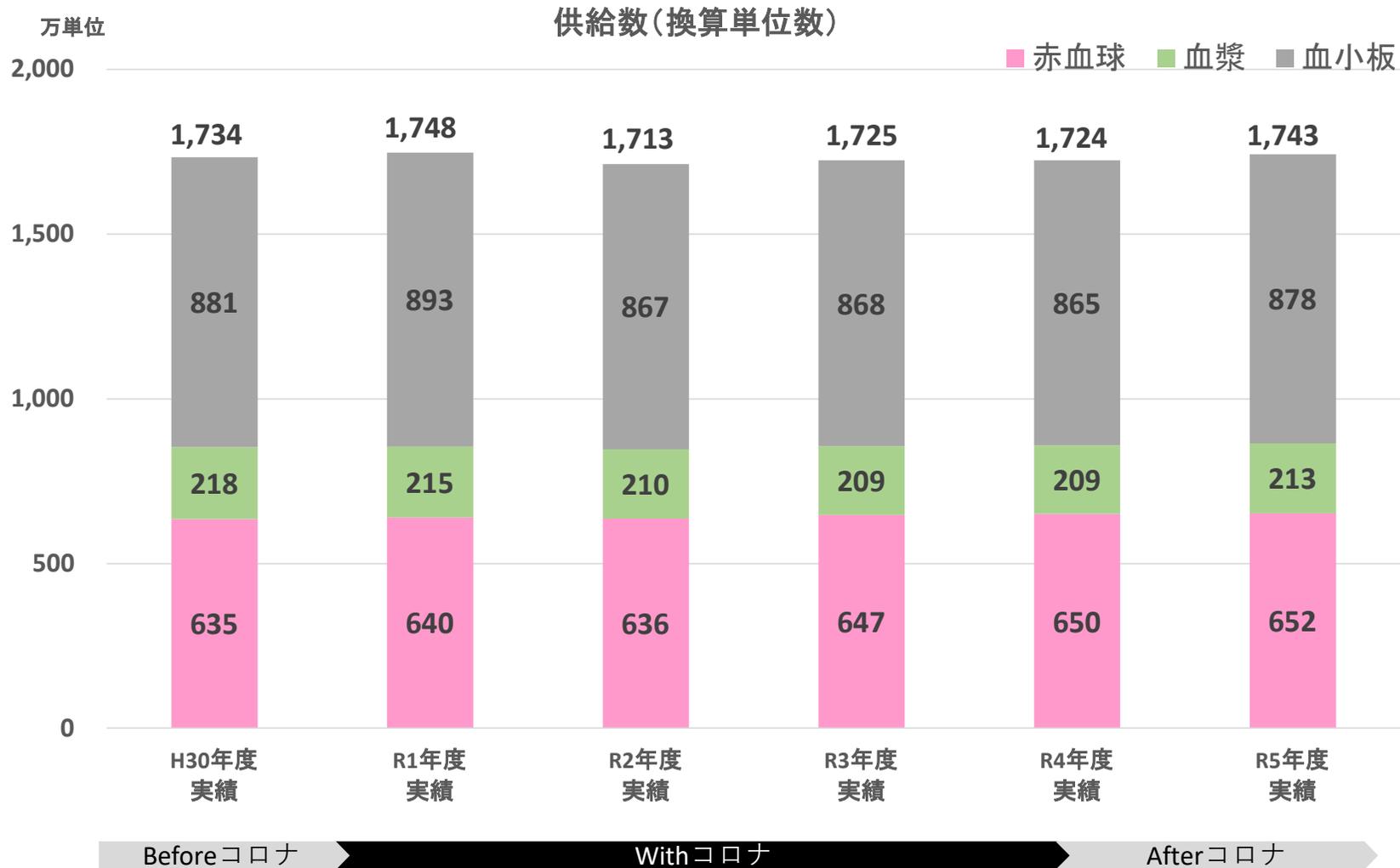
供給実績 (血液製剤の 供給数)	赤血球製剤	652万単位 (332万バッグ)	合計 1,743万単位 (504万バッグ)
	血漿製剤	213万単位 (89万バッグ)	
	血小板製剤	878万単位 (83万バッグ)	
供給実績 (血漿分画製剤用 原料血漿供給量)	凝固製剤用	23.5万L	合計 120万L
	一般製剤用	96.5万L	
採血実績 (献血者数)	全血献血	345万人	合計 501万人
	血漿成分献血	101万人	
	血小板成分献血	55万人	



令和5年5月に開所した  
原料血漿専用  
「東京八重洲献血ルーム」

- ※ 供給数は200mL全血献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。  
カッコ内は実バッグ数。
- ※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

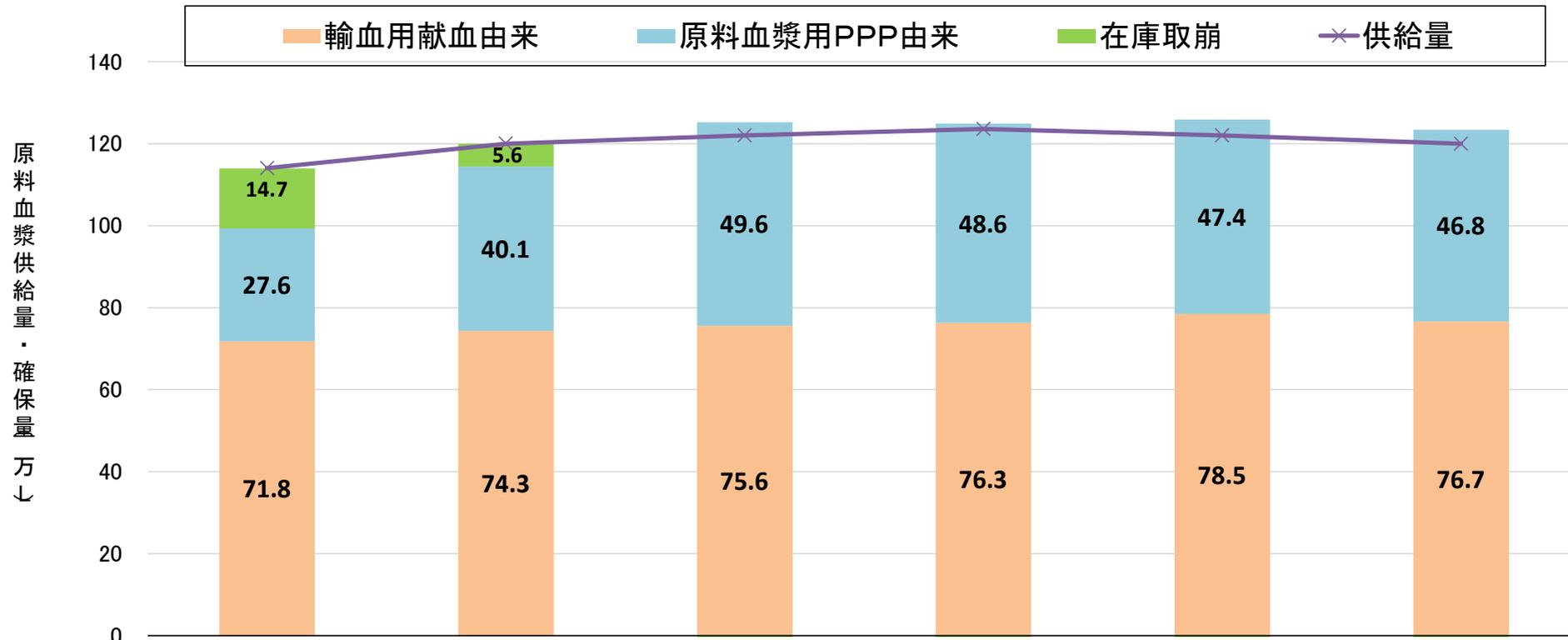
## (2) 輸血用血液製剤の供給実績



※ 供給数は200mL全血献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。

※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

### (3) 分画製剤用原料血漿供給及び確保状況



年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
供給量	114.0	120.0	122.0	123.5	122.0	120.0
確保量	99.3	114.4	125.2	124.9	125.9	123.4

※数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

供給量: 国が需給計画で定める量

確保量: 供給量等に基づき日本赤十字社が定める量

## (4) 採血実績(献血者数)

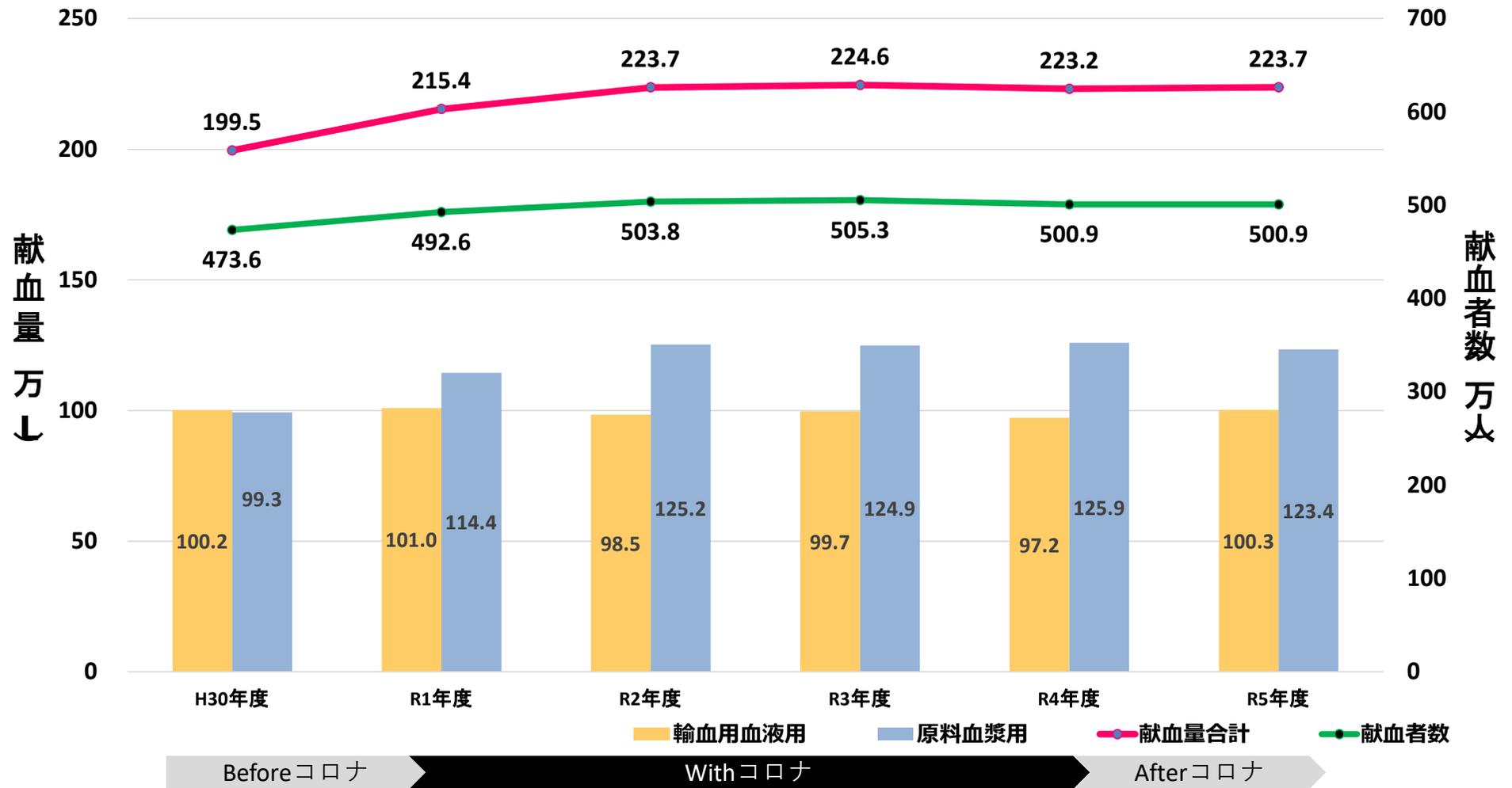
### 献血者数(総数)の推移



※数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

## (5) 献血量と献血者数

※数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。



## 2. 令和5年度に実施した主な取り組み

(1) 令和5年度献血推進施策

(2) 企業・団体へ向けた取り組み

(3) 血小板製剤への細菌スクリーニングの導入について

(4) 石川県能登半島地震への対応について

## (1) 令和5年度献血推進施策

### ア 『つなげ、その「ち」から』 プロジェクト

- ・ポスターの製作
- ・テレビCMの制作（15秒）
- ・WEB CMの制作（30秒×2本）
- ・ラジオCMの制作（20秒）
- ・公式WEBサイトの設置

つなげ、  
その「ち」から。

### イ 令和6年1月～2月「はたちの献血」キャンペーンの実施

- ・ポスターの製作
- ・テレビCMの制作（15秒）
- ・WEB CMの制作（30秒）
- ・ラジオCMの制作（20秒）
- ・公式WEBサイトの設置

## ウ TVアニメ『SPY×FAMILY』キャンペーン

※キャンペーンはすでに終了しています。

### 第1弾

【実施時期】 2023年9月12日～11月10日

【対象】 ラブラッド会員で希望された献血者

【記念品】 ポストカード

### 第2弾

【実施時期】 2023年11月14日～12月31日

【対象】 ラブラッド会員で希望された献血者

【記念品】 タオルハンカチ

第1弾 2023年9月12日(火)～2023年11月10日(金)

オリジナルポストカード

先着 30,000名様



第2弾 2023年11月14日(火)～2023年12月31日(日)

オリジナルタオルハンカチ

先着 30,000名様



©遠藤達哉／集英社・SPY×FAMILY製作委員会

## エ 献血セミナー用統一資材の作成

各血液センターが独自で作成している説明内容等を統一し、高校生を対象とした全国統一のセミナー資材を作成。

献血に対する不安を1つずつ解消していき、献血を知ってもらう構成。

献血って怖くない？

● 貧血にならない？ ●

献血する前に健康状態や血液の濃さなどを  
医師と看護師が確認するので安心安全！



- ✓ 医師による健康チェック
- ✓ ヘモグロビン等の測定
- ✓ 血液型の事前判定
- ✓ 血小板数の判定(成分献血)

19

高校生でもできるの？

● どこでできるのかわからない ●

オシャレで清潔！

東京都の献血ルームは、**14カ所**！

東京八重洲献血ルーム    献血ルーム池袋い〜すと    献血ルームfeel



〒104-0028  
東京都中央区八重洲二丁目1番1号  
YANMAR TOKYO 3F



〒170-0013  
豊島区東池袋1-1-4  
タカセセントラルビル8階



〒131-0045  
墨田区押上1-1-2  
東京スカイツリータウン・ソラマチ10階

60

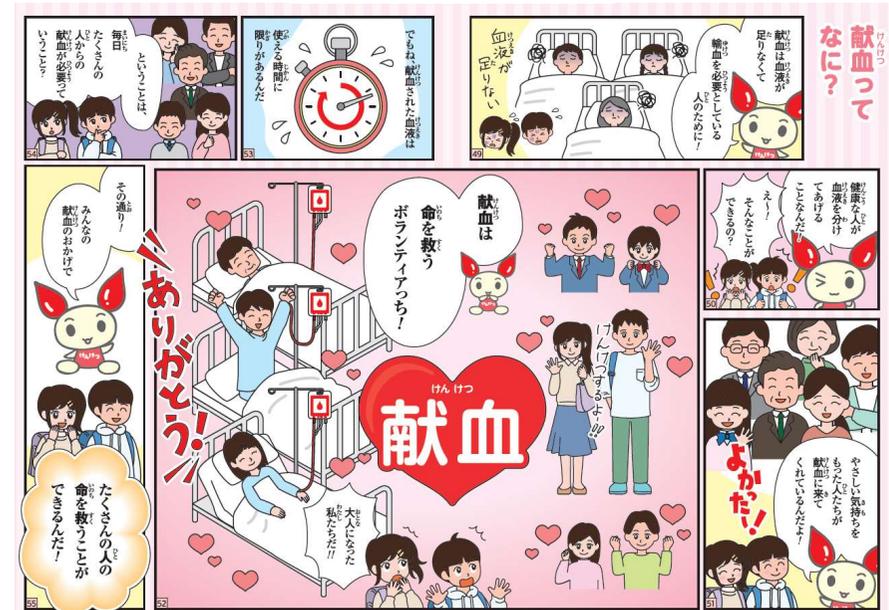
# 才 小学4年生に向けた献血教育冊子の配付

「みんなで学ぼう 血液のこと」

令和6年2月に全国の小学校へ発送

配付小学校数 18,463校

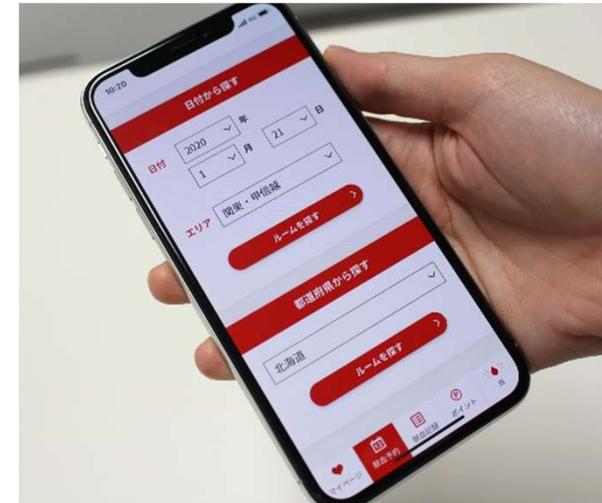
配付数 1,211,561冊



献血教育冊子

## カ 献血Web会員サービス「ラブラッド」を活用した献血及び予約の推進

- ・「ラブラッド」の登録会員の獲得のほか、献血協力の事前予約を推進  
⇒必要血液量を計画的かつ安定的に確保
- ・「ラブラッド」で抽出した循環血液量の多い方を中心に、献血協力を依頼  
⇒必要血液量を少ない献血者数で効率的に確保



### 【「ラブラッド」の活用状況】

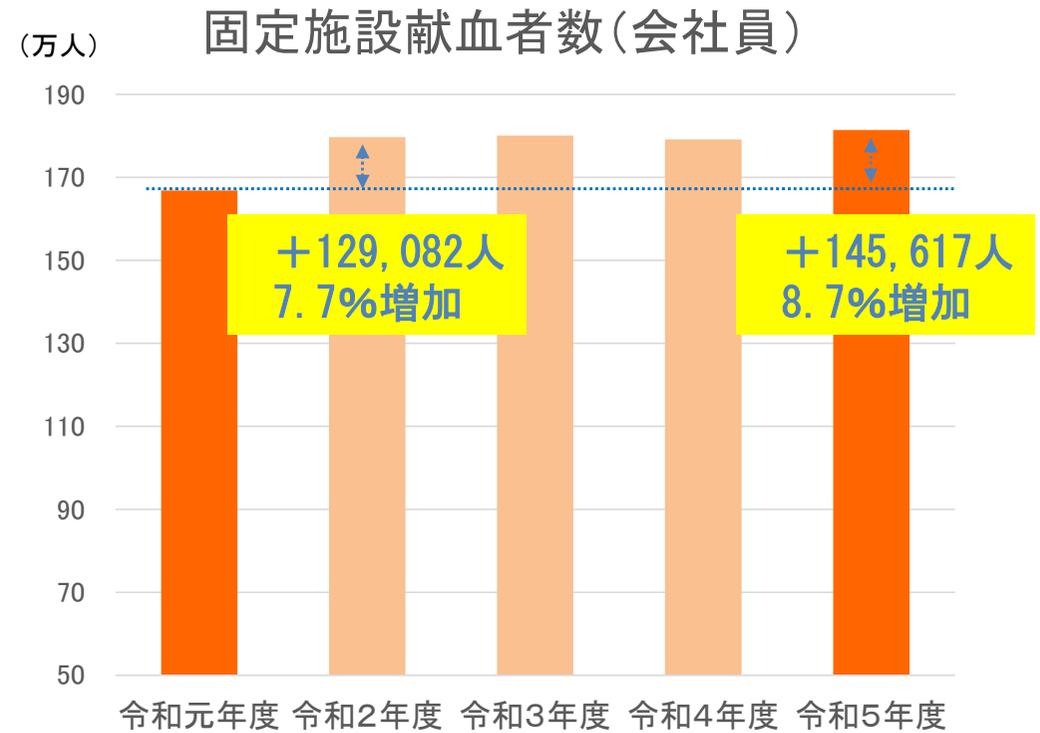
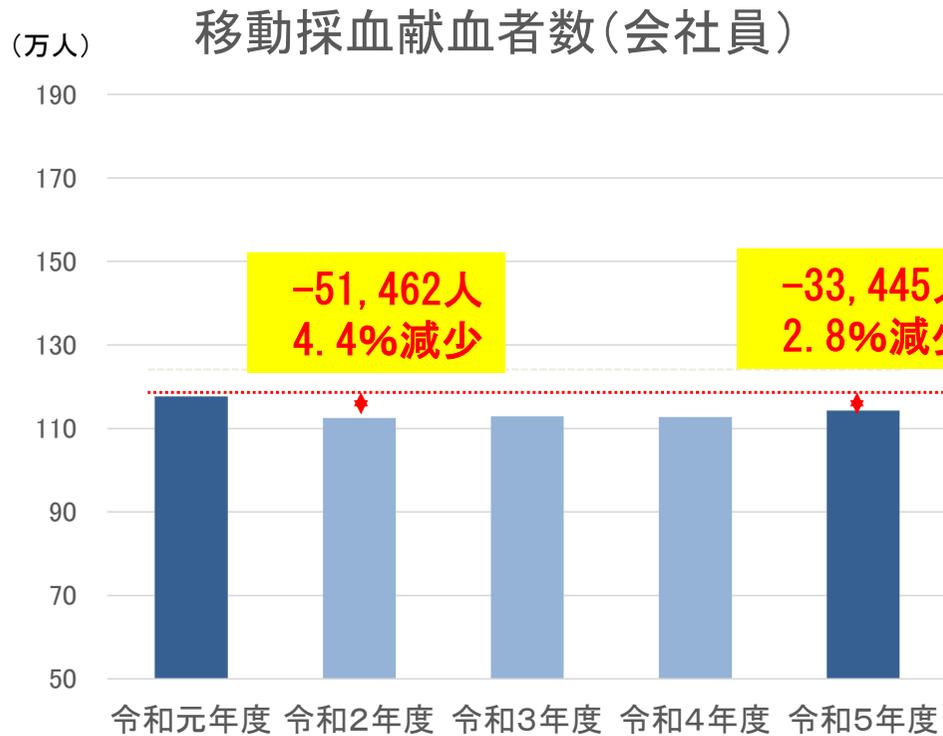
	ラブラッド会員数	予約率 (血小板成分献血)	予約率 (血漿成分献血)	予約率 (全血献血)
ラブラッド導入時 (平成30年10月)	約155万人	28.9%	21.4%	1.5%
令和4年度	約338万人	85.9%	81.9%	29.9%
令和5年度	約376万人	90.9%	88.2%	43.3%
増減(R5-R4)	約38万人増	5.0ポイント増	6.3ポイント増	13.4ポイント増

ラブラッド会員数は増加し、予約率も向上

## (2) 企業・団体に向けた取り組み

### ア 企業献血の現状について

コロナ禍以降、企業におけるテレワークの定着等により、企業（団体）献血協力が減少した。



イ 企業等の勤務スタイルに適応した献血推進のための仕組みの構築と実施  
企業に団体コードを付与し、団体コードを用いて献血した従業員等を企業献血の実績とする仕組みを構築し、実施した。

## 仕組み

- ① 血液センターから企業(団体)様へ**団体コード**を付与



- ② 企業(団体)の献血担当者様から、**従業員(家族等を含む)の方に献血協力を依頼**



- ③ 協力いただける従業員の方は、**献血アプリ**で予約し、**団体コード**を持って、居住地近隣の**献血会場**等で献血



- ④ 従業員による献血協力は**団体コード**を用いた**企業の実績**として集計・報告



## ウ 企業献血の意義と重要性を再認識していただくためのアプローチ

経済団体等への働きかけにより、社員等への献血協力のみならず献血の重要性を社会に向けて発信いただくことで、社会貢献活動としての献血の輪を広めていく。



Action(活動) 週刊 経団連タイムス 2024年1月11日 No.3620

**幹事会で紀野日本赤十字社理事が講演**

---

経団連は12月12日、東京・大手町の経団連会館で幹事会を開催した。日本赤十字社の紀野修一業務執行理事・血液事業本部長が「医療を支える献血～次世代につなぐ献血の輪」と題して講演した。概要は次の通り。

献血血液はわが国の医療現場を支える必要不可欠なものであるが、少子高齢化の進展や、行動様式の変容などを背景に、献血をめぐる状況は大きく変化している。特にコロナ禍を機に、在宅勤務者の増加などを背景として、10～40歳代の献血者が減少しており、献血血液の将来にわたる安定的確保が厳しい状況にある。



紀野氏

経団連タイムスに掲載された記事

### インフォメーション

献血にご協力を

日本赤十字社では、献血への協力を求めている。コロナ禍以降、リモートワークの普及などにより、企業献血の受け入れ先が減り、会社員の献血協力が減少している。一方で輸血を必要とする患者は恒常的におり、同社は協力を呼び掛けている。

献血会場は都内13カ所の献血ルームのほか、献血バスで様々な場所を巡回している。献血の際はウェブやアプリ「ラブラッド」で予約可能。会場一覧など詳細は右の二次元コードを参照。



東京商工会議所機関紙【東商新聞】に掲載された献血の記事

# シャレン！で献血



令和5年度から『シャレン！で献血』というテーマを掲げ、明治安田生命保険相互会社、公益社団法人日本プロサッカーリーグ及び日本赤十字社の3者で連携し、献血に関する活動を展開した。

## 令和5年度「シャレン！で献血」の献血実績

実施期間	令和5年4月28日～12月31日
献血協力人数(全体)	10,341人(受付11,552人)
献血ルーム協力人数	6,545人(受付7,086人)
スタジアム協力人数	3,796人(受付4,466人)
献血協力クラブチーム数	71チーム

令和6年度も実施

### (3) 血小板製剤への細菌スクリーニング導入について

- ア 令和7年度に細菌スクリーニングを導入した血小板製剤を供給開始するための血液センターでの準備
- イ 製造販売承認申請の実施
- ウ 日本輸血・細胞治療学会等関連学会への情報共有

## (4) 石川県能登半島地震における対応

発生日時: 令和6年1月1日 16時10分 最大震度: 震度7 (マグニチュード7.6)

### 血液事業への影響

- ・主要道路の通行規制等
- ・能登地方を中心とした献血受入の一部中止



### 対応

災害の発生に関わらず、必要な血液量をブロック単位又は全国的に確保する体制を構築

⇒全国的な需給調整により、合計830単位の赤血球製剤を東海北陸ブロックへ送り、必要な血液製剤を医療機関へお届けした。

### 3. 血液事業特別会計歳入歳出決算

#### (1) 令和5年度決算の概要

	令和4年度		令和5年度	増減額	増減率
収益的収入合計	1,659億円	→	1,665億円	+6億円	+0.4%
収益的支出合計	1,637億円	→	1,574億円	△62億円	△3.8%
収支差引額	21億円	→	90億円	+69億円	

令和5年度	
資本的収入合計	251億円 (自己資金244億円、補助金等収入6億円)
資本的支出合計	251億円 (固定資産支出248億円、借入金等償還2億円)

※1億円未満切り捨て

※端数処理により一部合計値に差異が生じる場合があること。

## (2) 令和4年度事業収支との比較(事業収益／事業費用)

### 事業収益の増加 13.3億円

ア	赤血球製剤の収益増加	(2.0万単位増加)	1.8億円
イ	血漿製剤の収益増加	(3.8万単位増加)	3.2億円
ウ	血小板製剤の収益増加	(12.8万単位増加)	10.4億円
エ	原料血漿の収益減少	(2.0万L減少)	▲2.2億円

### 事業費用の減少 ▲58.6億円

ア	人件費		▲46.4億円
	■退職給付会計の決算整理額の差異に伴う減少【▲45.0億円】		
イ	材料費		11.7億円
	■資材値上げの影響等による増加【11.7億円】		
ウ	経費		▲25.5億円
	■検査機器の整備等に伴う減価償却費の増加【8.9億円】		
	■システム開発のフェーズ移行等に伴う委託費の減少【▲29.6億円】		
	■補助政策・再エネ賦課金の減少等に伴う光熱水費の減少【▲1.9億円】		
エ	その他事業費用の増加		1.5億円

※ 0.1億円未満切捨て  
 ※ 端数処理により一部合計値に差異が生じる場合があること。

(注)  
 内訳は要因の一部を記載しているため  
 合計額とは必ずしも一致しないこと。20

## 【参考】収支状況の推移

・H24～H27年度

ブロック血液センターの整備、血液事業情報システムの導入等の大きな投資のため、広域事業運営体制導入以降、一時的に赤字決算が続いた。

・H28年度～

事業効率の改善や当該投資に係る減価償却費の減少、施設整備の凍結等の結果、黒字決算となっている。現在、次期基幹システムへの更新、細菌スクリーニング及びPAS血小板製剤の導入等の血液の安全性及び品質等の向上、献血者・医療機関に向けたITデジタル化等にかかる投資を行っている。

